

松屋寺【しょうおくじ】

▶ 日出藩木下家の菩提寺

日本一大きな蘇鉄や雪舟の庭園を持つ木下家の菩提寺で、松屋寺秘宝殿には、涅槃図（ねはんず）をはじめ多くの寺宝が保存されています。また、寺内にある木下家墓所には、木下藩歴代藩主や親戚、家臣などが眠っています。



的の山莊【てきざんそう】

◀ 成清博愛の別邸

杵築市山香町にあった馬上金山で一躍富豪となった成清博愛は、大正3（1914）年、敷地3,670坪・建坪247坪の日出別邸（現在の的の山莊）を建築しました。的の山とは、「山を的（あ）てたい」と願った博愛の別名で、昭和39（1964）年より、割烹料理店として開業。平成22（2010）年より、町の指定管理施設となりました。



▲ 蓮華寺千手観音立像

蓮華寺に保存されている鎌倉時代の作で、県の文化財となっています。



▲ 愛宕神社

豊後国で一番最初に建てられた愛宕神社で、古くから数多くの人々のあつい崇拝を受けています。

The castle of Hiji was founded in 1602 by Kinoshita Nobutoshi, a nephew of Nene, the wife of Toyotomi Hideyoshi, and Hiji Town flourished. Many historic sites connected with the Kinoshita Clan remain, including the ruins of Hiji Castle, the Genroku Bell, Sho'oku-ji Temple, the family plot of the Kinoshita Clan, and so on. The cycad in front of Sho'oku-ji Temple was transplanted from Funai Castle in Oita City by Kinoshita Toshiharu, second-generation suzerain. It is the largest in Japan. It is said that the castle was also known as Yokoku Castle after a phrase in an ancient Chinese text.



▲ 鬼門櫓

災いを招くという北東の方角に位置していたことから、「鬼門櫓」と呼ばれています。文化財指定を受けた後、保存修復工事を行いました。



日出の歴史を物語る
きもんやぐら
鬼門櫓

日出城の築城にあわせて建てられたといわれる2層2階建の櫓で、お城の本丸北東隅に位置しています。この櫓の最大の特徴は、平面・外観ともに北東隅を欠いた構造です。これは全国でも珍しく、当時鬼門として忌み嫌われていた北東の方角を避けるためであったと考えられています。

明治に入り、廃藩置県・廃城令により次々と本丸内の天守や櫓が取り壊される中で奇跡的に残った鬼門櫓は、その後個人の所有となり、平成20（2008）年に日出町に寄付され、平成21（2009）年に日出町有形文化財に指定されました。

城下町の歴史

日出城は、慶長7（1602）年、豊臣秀吉の正室ねねの甥である木下延俊が初代藩主として築き上げた城で、日出町は城下町として栄えました。現在も町内には、「日出城址」をはじめ、「元禄の時鐘」「松屋寺」木下家

墓所」など、木下家ゆかりの史跡が数多く残っています。

また、日出城の名前は、中国古書淮南子の「日は陽谷より出でて咸池に浴す」から来ているともいわれており、陽谷城という名も残されています。



▲ 松屋寺の蘇鉄

松屋寺本堂の前にある日本一大きな蘇鉄で、2代藩主木下俊治が府内城番交代の際に持ち帰ったものです。



▲ 元禄の時鐘

元禄8（1695）年に3代藩主木下俊長の命により鑄造され、時刻を知らせる鐘として使用されていました。

▼ 城下町の名残

日出城が築城された当初、城内本丸には天守や櫓が築かれ、本丸を中心に二の丸・三の丸・外郭の三重構造になっていました。現在も、城壁やお堀の跡が残っており、城内跡地には日出小学校が建設されています。

日出城址

ひじじょうし

数々の遺産が物語る歴史を訪ねながら、呼び覚まされる時の記憶に思いを馳せる。



日出が誇る、
歴史の語り部

日出の



文教のまちを築き上げた

日出を代表する偉人たちが残した栄光の軌跡を辿る。

When Hiji Town is cited as a seat of great learning, the names of Hoashi Banri and Waki Ranshitsu are mentioned. Banri is famous as one of three wise Confucians in Bungo, and Ranshitsu, a Confucian who trained young people, was Banri's teacher. Taki Rentaro, a famous musician in Japan, comes from a family with intimate connections to Hiji Town, and the Taki family has supported Hiji Domain and served in important posts for more than 260 years. Today, the graveyard of the Taki family, the site of their settlement, and the monument to Rentaro remain so we can trace the Taki family's legacy.



【帆足萬里の恩師】

脇 蘭室

わき らんしつ

子弟教育に力を入れた儒学者

明和元（1764）年に日出で生まれた脇蘭室は、熊本、敷島山や三浦梅園に学び、帰郷後は、私塾「菊園」を開いて帆足萬里をはじめ多くの門人を育てました。

後に、熊本藩の要請を受けて藩校時習館の訓導として尽力しましたが、二年で辞して熊本藩領の鶴崎で子弟の教育にあたり、門下生として、毛利空桑などを教えました。

蘭室の著した書物に、文化「揆に於いて記録した」党民流説や、「辺備略」「鶴崎夜話」などがあります。また、蘭室は漢詩文にも長けており、国文学や和歌などにも精通してい



▲脇蘭室の生誕地

日出町平道地区にある蘭室の生誕地には、蘭室をしのぶ漢詩が刻まれた石碑が立っています。

文化11（1814）年に51歳で没した蘭室をしのび、生誕地である日出町平道地区では、毎年11月に、蘭室が残した功績を後世に伝えるため、脇蘭室祭を開催しています。

偉人コラム

瀧家と日出町の
かわり

瀧家と日出町

全国的に有名な音楽家瀧廉太郎を輩出した瀧家は、260年以上もの間家老などの要職にあたり、日出藩を支えてきました。廉太郎の祖父平之進は、17年間日出藩の家老職に就いて藩政の改革にあたり、父の吉弘は、廃藩後に上京して大蔵省や内務省で活躍するなどの名を残した人物です。



▲瀧廉太郎君碑

廉太郎が卒業した音楽学校の同窓によって建立された石碑。現在は、龍泉寺の墓所へ移設されています。

廉太郎と日出町

親族のつながりから、廉太郎自身も日出町出身であることを称しており、日出町出身者で結成されていた「陽谷会」に入会していました。廉太郎は、もともと親父が深かった利紫山和尚の寺「万寿寺」に葬られていましたが、平成23（2011）年に親族の意向により、瀧家の墓所がある龍泉寺へ廉太郎の墓と石碑が移設されました。

▲瀧廉太郎像

日出町二の丸、日出城址前に設置してあるこの銅像は、日本を代表する彫刻家朝倉文夫氏が製作したもので、近くの学校に通う子どもたちを毎日見守り続けています。



▲瀧家住居跡

日出城址周辺の閑静な場所に位置し、現在は日出幼稚園となっています。



▲瀧家墓所

瀧家の菩提寺「洞雲山龍泉寺」の中にある墓所。廉太郎をはじめ瀧家一族31名が眠っています。

学問と藩政治で活躍

安永7（1778）年、日出藩の家老の家に生を受けた帆足萬里は、若いころから学問に励み、同じく日出町出身の儒学者である脇蘭室に教えを受けました。

日出藩が財政難に陥った際、萬里は家老職を引き受け、藩政の立て直しを図りました。

そのほか、家塾や私塾「西嶺精舎」などを開いて多くの門下生を持ち、経済・天文・医学・数学など幅広い分野の学問を独学で学び、多くのの人へ教示していました。萬里が著した書物には、蘭学書である「窮理通」や警世の書ともいえる「東潜夫論」などが

安永7（1778）年、日出藩の家老の家に生を受けた帆足萬里は、若いころから学問に励み、同じく日出町出身の儒学者である脇蘭室に教えを受けました。

日出藩が財政難に陥った際、萬里は家老職を引き受け、藩政の立て直しを図りました。

そのほか、家塾や私塾「西嶺精舎」などを開いて多くの門下生を持ち、経済・天文・医学・数学など幅広い分野の学問を独学で学び、多くのの人へ教示していました。萬里が著した書物には、蘭学書である「窮理通」や警世の書ともいえる「東潜夫論」などが



▲帆足萬里の墓

帆足家の菩提寺である龍泉寺の西方にある小高い丘に建立されており、県指定史跡となっています。

あります。

三浦梅園 広瀬淡窓とともに豊後の三賢と称された萬里は、嘉永5（1852）年にその生涯を閉じました。



昭和63（1988）年刊
行の帆足萬里全集。

帆足萬里

【豊後の三賢】の一人として名高き儒学者

ほあしばんり

